

第2回 総務省

ユビキタスネット社会におけるプラットフォーム機能のあり方に関する研究会

プラットフォーム層をめぐる動向について

(注)本資料は、研究会事務局において試行的に取りまとめたものであり、内容については、資料に記載されている法人の了承を得たものではありません。

2005年4月7日

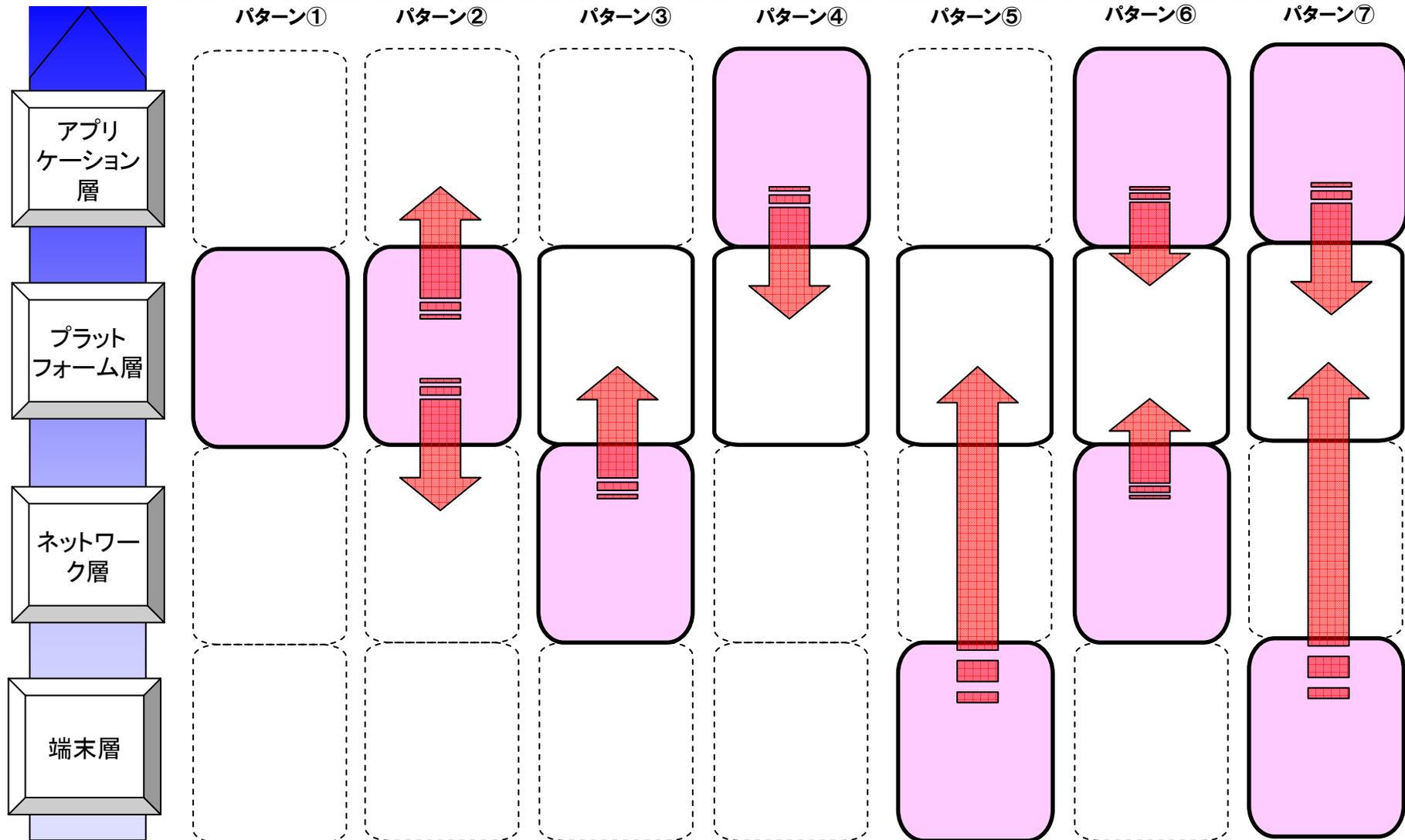
事務局

総論

(概念整理)

レイヤ別にみた事業展開例 ... パターン一覧

プラットフォーム層を提供するビジネスへの展開方法として、下位層からの展開、上位層からの展開、下位層と上位層の連携、プラットフォーム層横展開等、7パターンに分類することが可能



プレイヤーの分類

プラットフォーム事業者は、同機能のみを提供している「**専門プレイヤー**」(他層事業は協働型で展開)と、アプリケーション等他層の機能を合わせて提供している「**兼業プレイヤー**」(他層事業の全部あるいは一部を統合)に分けることができる

プラットフォーム事業者の種別

専門プレイヤー プラットフォーム機能のみを提供	既存事業向けからの横展開 ICT産業以外を対象に既にプラットフォーム機能を提供しており、その機能を電子商取引等に横展開したプレイヤー 例)クレジットカード	協働型	<ul style="list-style-type: none"> 複数の事業者が連携して、それぞれが得意とするレイヤーの経営資源を持ち寄り、各パーツを組み合わせてオープンなビジネスモデルを形成するもの エンドユーザーに対しては、複数の事業者が窓口を一本化することによって利便性を確保することが可能である
	ICT産業向け展開 ICT産業向けにプラットフォーム機能の提供を開始したプレイヤー 例)ISP、電子認証、タイムスタンプ		
兼業プレイヤー 他層のサービスと組み合わせて提供	アプリケーション層からの拡大 アプリケーションとプラットフォーム機能を組み合わせて提供しているプレイヤー 例)オンラインショッピング、DRM	統合型	<ul style="list-style-type: none"> 端末・ネットワーク・プラットフォーム(認証・課金・ポータルサイトの運営等)を一体として展開しているモデル ユーザーに対してワンストップサービスが提供可能である。また市場ニーズの細分化に合わせて協働型を併用する場合もある
	ネットワーク層・端末層からの拡大 ネットワークや端末をサービスとして提供するために、プラットフォーム機能を組み合わせて提供しているプレイヤー (例)携帯電話(iモード)、情報家電	統合・協働併用型	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションの自社展開を進めつつも、他事業者の有力なアプリケーションへのインターフェースを提供するような併用パターン

(参考)「電気通信事業分野におけるブロードバンド競争政策の在り方」

(平成14年6月 総務省情報通信新時代のビジネスモデルと競争環境整備の在り方に関する研究会 最終報告書)

他のレイヤとの関係 ... 対アプリケーション層

アプリケーション層との関係でみた場合、統合型と協働型の区分に加え、協働型も、「デファクト」「デジュレ」「マルチ」の3パターンに分けて考えることができる

プラットフォーム層とアプリケーション層の関係

AP: アプリケーション層、 PF: プラットフォーム層

		統合型	協働型		
			マルチ	デファクト	デジュレ
イメージ	<p>独自仕様</p>		<p>(複数企業連携の場合も)</p>	<p>時に移行</p>	
例	医療関連(カルテ等)	コンテンツ配信	電子マネー、Webブラウザ	タイムスタンプ、ETC	
論点	<ul style="list-style-type: none"> PFの仕様をAP企業が支配し互換性は低い 先発大手企業にとって最も魅力あるモデル ユーザからの要望の反映をカスタマイズで反映させる例多い 	<ul style="list-style-type: none"> ユーザに複数の選択肢を与え利便性向上 倒産等によるリスクを軽減 重複投資等が生じる可能性 	<ul style="list-style-type: none"> APの市場ニーズとマッチしたPF機能 企業Aの戦略次第で公共的にも困り込みにもなる 企業Aの倒産、撤退等のリスクがある 	<ul style="list-style-type: none"> ベンダーリスクが低い 普及すれば価格低廉化 ビジネスベースにならない(オーバースペック等)場合がある。 	

※PF企業の事業戦略上統合型と協働型を併用する場合もある(例: 携帯電話会社における自社ポータル(公式ページ)とアドレスの手入力(非公式ページ)等)

他のレイヤとの関係 ... 対ネットワーク層

ネットワーク層とプラットフォーム層のあり方については、協働型に特色がある。すなわち、「マルチ」型に加え、ドミナント(支配力のある)である層がプラットフォーム側にあるかネットワーク側にあるかによって分けることができる

ネットワーク層とプラットフォーム層の関係

PF: プラットフォーム層

		統合型	協働型		
			マルチ	PFドミナント	NWドミナント
イメージ					
例		携帯電話事業者	ISP(の多く)	クレジットカード決済	標準時配信(電波)
論点		<ul style="list-style-type: none"> プラットフォームを自社主導で展開して、顧客拡大の基礎を築いた点で貢献は大きい 今後のPFのあり方については、国際標準やユーザの利便性等で議論がある 	<ul style="list-style-type: none"> ISPの諸機能が(パソコン通信と比べ)NW非依存となることで価格、サービス競争が増した NW事業者もチャネル拡大のために進んで提携 倒産等によるリスクを軽減 重複投資等が生じる可能性 	<ul style="list-style-type: none"> デファクトのPFがNW環境に依存せず(複数のNW環境に対応)機能提供 企業Aの倒産等リスクはあるが、NW企業にとってPF機能共有によるコストメリットがある 	<ul style="list-style-type: none"> 標準時配信(NICT)、放送衛星(宇宙開発事業団)等公共性の極めて高い一部通信インフラ 公共インフラではないが性格上近いもの(通信衛星等)もある

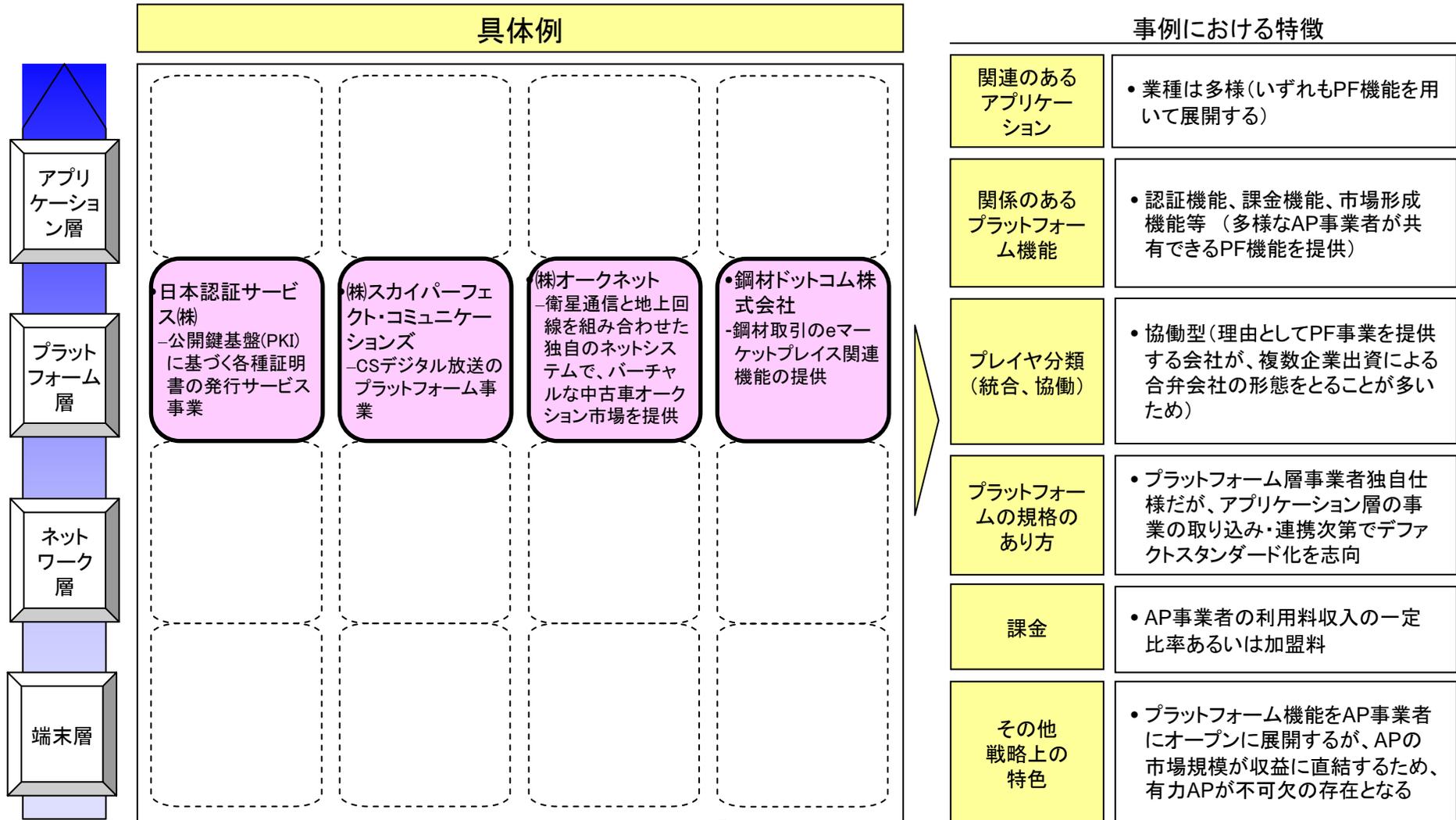
※PFドミナント、NWドミナントについては、デファクト・デジュレに細分化することも可能

各論

(具体的な事業展開例)

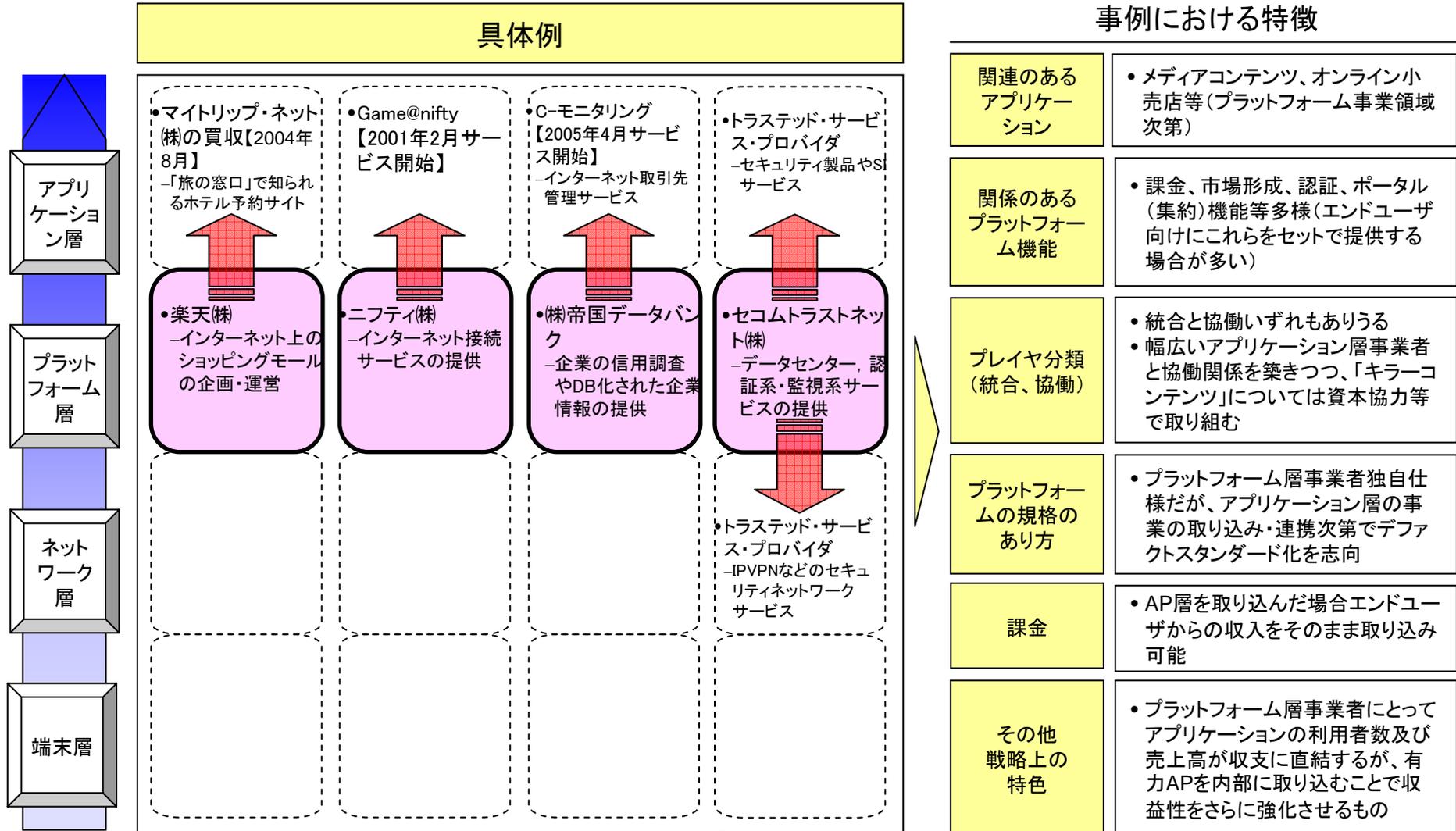
レイヤ別にみた事業展開例 ... プラットフォーム專業

プラットフォーム事業者がプラットフォーム機能のみをサービスとして提供するもの。アプリケーション事業については、自社資本の展開よりむしろ、(加盟店制度等)幅広い企業への接点を提供することによる利用料収入をビジネスモデルとしている



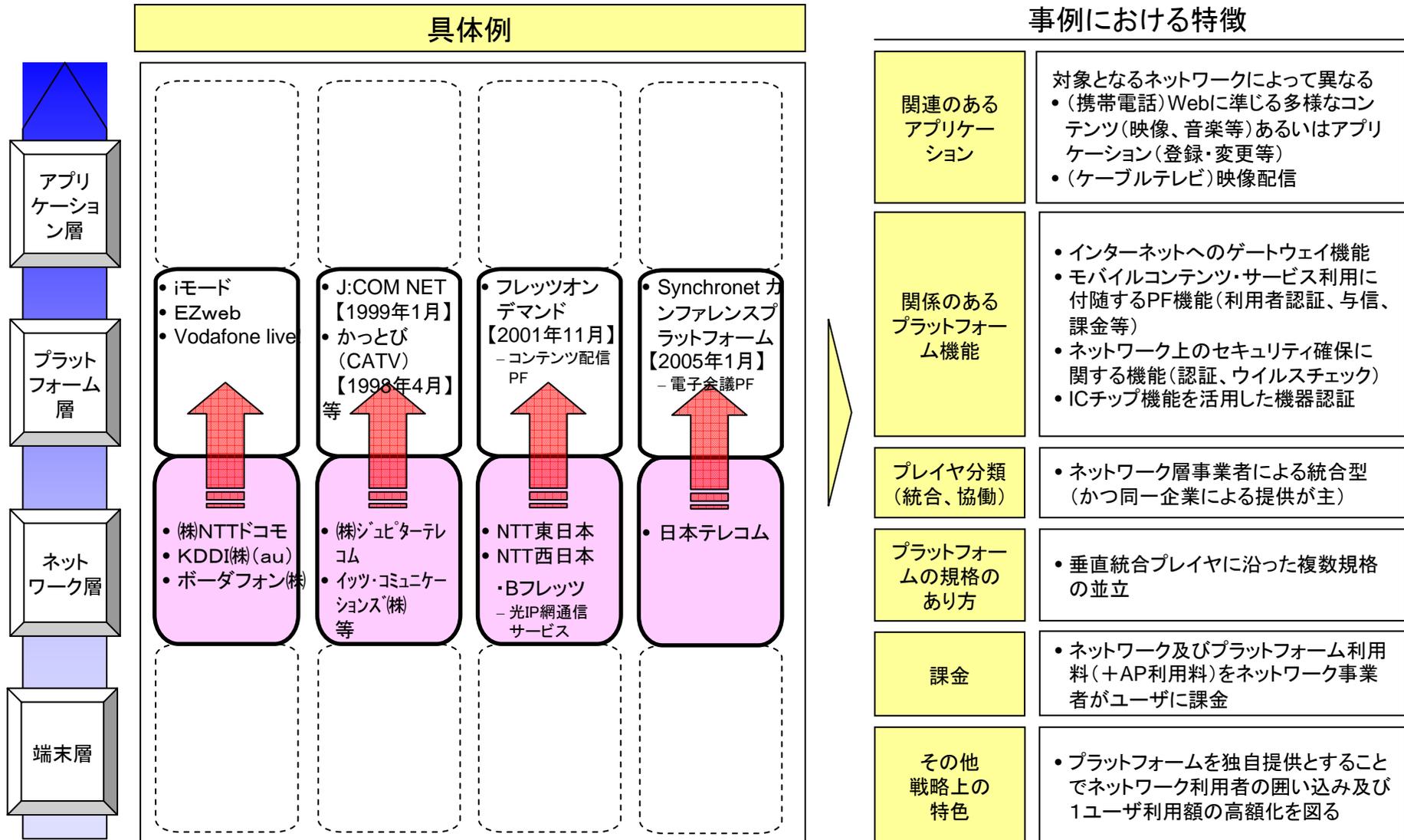
レイヤ別にみた事業展開例 ... プラットフォーム層からの他層へ

プラットフォーム事業者が有力なコンテンツ、アプリケーションを資本協力等に取り込むことでユーザー増を狙うモデル



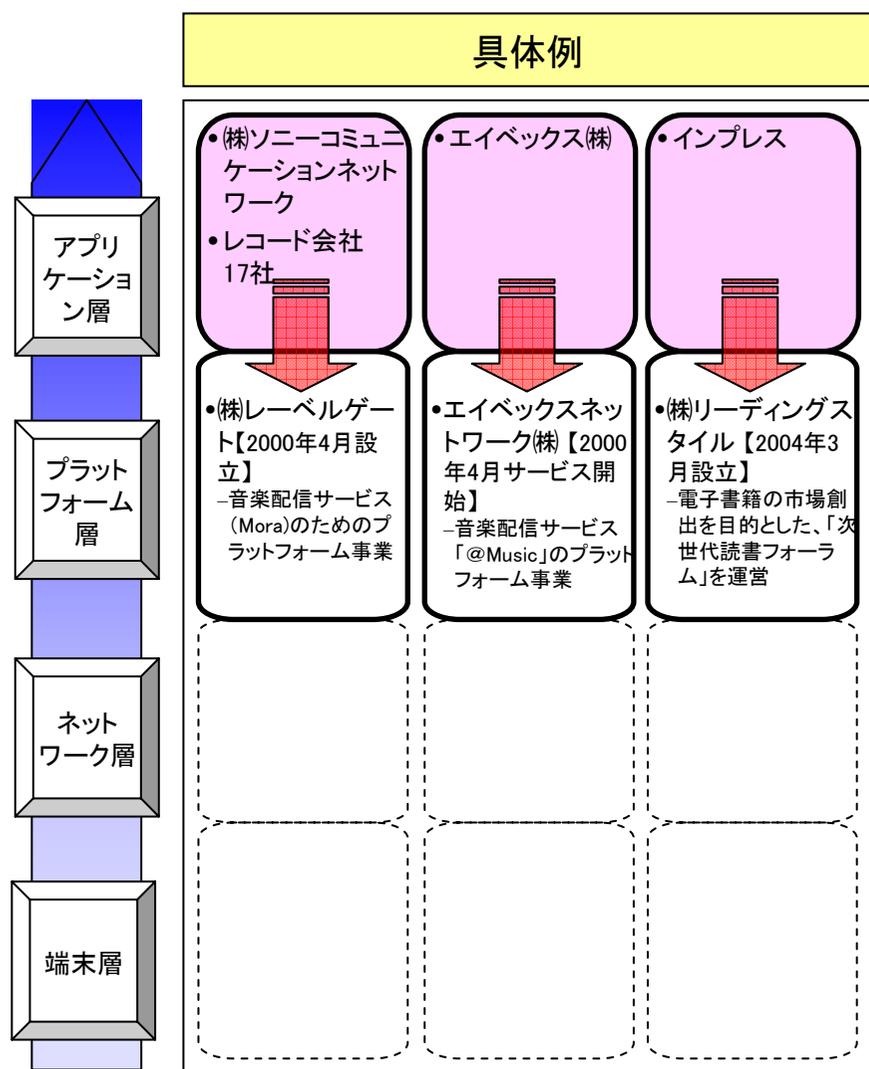
レイヤ別にみた事業展開例 ... ネットワーク層からプラットフォーム層へ

ネットワーク事業者が自社回線を利用する顧客向けに付加価値としてPF機能を提供し、囲い込みを図るモデル



レイヤ別にみた事業展開例 ... アプリケーション層からプラットフォーム層へ

アプリケーション事業者が顧客への信頼性向上や、サービスの多様化のためにPF機能を独自提供するモデル

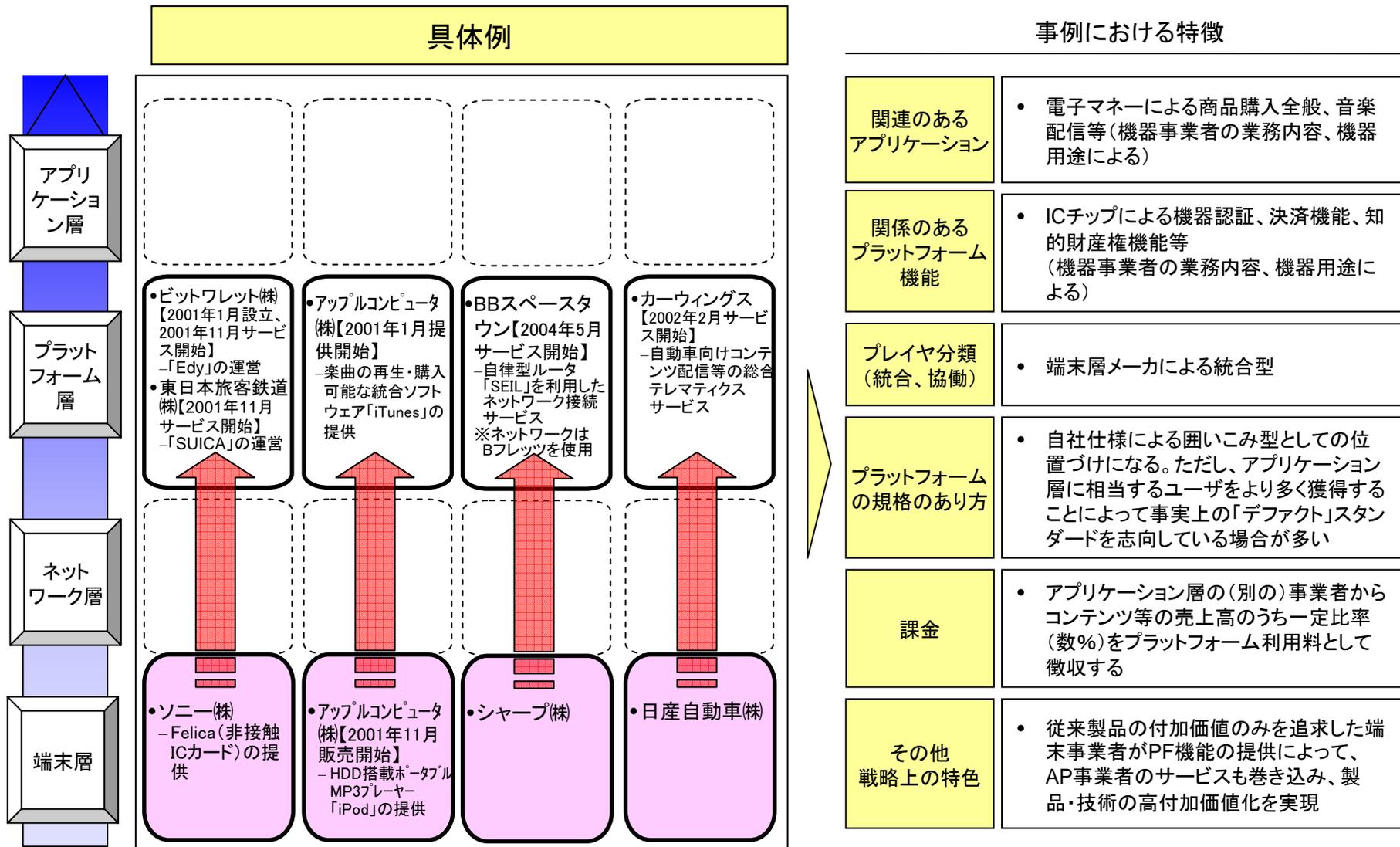


事例における特徴

関連のあるアプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツ(音楽)、書籍等 (今後は多様化していくと思われる)
関係のあるプラットフォーム機能	<ul style="list-style-type: none"> デジタルコンテンツの配信に関連する機能 (DRM) デジタルコンテンツの市場販売に関する電子商取引関連機能 (課金決済、市場形成等) ポータル機能(協働型)
プレイヤー分類 (統合、協働)	<ul style="list-style-type: none"> 協働型(コンテンツ事業者連携による新会社設立)と統合型のいずれも見受けられた
プラットフォームの規格のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 協働型は参加事業者数を増やすことで「デファクト」音楽配信プラットフォームを志向、統合型は独自プラットフォームを志向
課金	<ul style="list-style-type: none"> ユーザのコンテンツ購入費の一部、端末事業者の広告費等
その他戦略上の特色	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーション層の事業者が従来の販売チャネルを補完するために提供した、より廉価で簡単に利用できるオンラインサービスとしての位置づけ

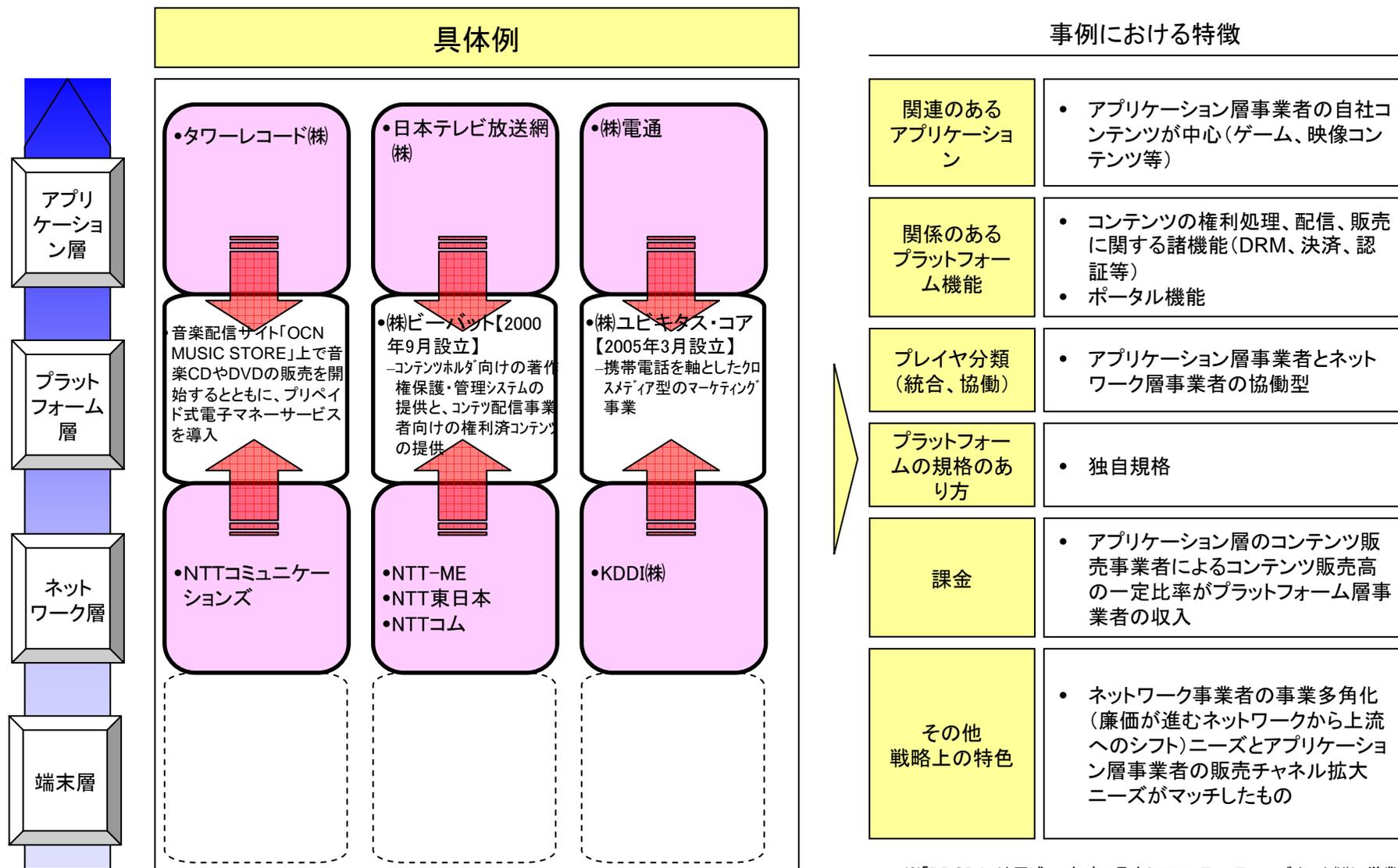
レイヤ別にみた事業展開例 ... 端末層からプラットフォーム層へ

端末事業者が自社の製品・製造技術を、プラットフォーム機能の取り込みによってアプリケーション層事業者向けに商品化するモデル



レイヤ別にみた事業展開例 ... アプリケーション層及びネットワーク層からプラットフォーム層へ

ネットワーク事業者が別のアプリケーション事業者と手を組んでプラットフォームを共通化するもの



※「BROBA」は平成16年度3月末にエヌ・ティ・ティ・レゾナント(株)に営業譲渡

レイヤ別にみた事業展開例 ... アプリケーション層及び端末層からプラットフォーム層へ

端末機能の高付加価値化を目指すためにプラットフォーム機能及び関連するアプリケーション事業者を取り込もうとするモデル

